

議事録

| | |
|--------------|--|
| 項目 | 第4回 水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会 |
| 協議日時 | 令和元年6月7日（金） 14:00～15:30 |
| 協議場所 | 市役所別館 駐輪場8階会議室 |
| 協議者 (敬称略) | <p>東海大学 現代教養センター（九州教養教育センター） 特任教授 市川 勉（会長）</p> <p>熊本大学大学院 くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授 星野 裕司（副会長）</p> <p>熊本大学大学院 先端科学研究部（工学系）環境保全分野 准教授 皆川 朋子</p> <p>九州大学大学院 芸術工学研究院 環境デザイン部門 准教授 藤田 直子 ※欠席</p> <p>公益財団法人 熊本市美術文化振興財団 理事 葉山 耕司 ※欠席</p> <p>公益財団法人 地方経済総合研究所 専務理事 木村 正明</p> <p>キリンビール株式会社 九州統括本部 南部九州支社 熊本支店 業務部 担当部長 宮脇 雅人 ※欠席</p> <p>株式会社スノーピーク地方創生コンサルティング シニアマネージャー 若松 隆一 ※欠席</p> <p>熊本県ボート協会 会長 三井 宜之</p> <p>協業組合江津湖観光 マネージャー 江藤 啓貴</p> <p>江津湖貸舟協同組合 理事 川上 二矢 ※欠席</p> <p>熊本県立図書館 館長 豊田 祐一</p> <p>一般社団法人 熊本市造園建設業協会 会長 吉村 昌洋</p> <p>一般財団法人 熊本市社会教育振興事業団 理事長 宮原 國臣 ※欠席</p> <p>水前寺江津湖公園愛護会 会長 多神田 喜代太</p> <p>水前寺江津湖（体育館跡）公園愛護会 会長 松尾 直樹</p> <p>水前寺江津湖（児童）公園愛護会 会長 小崎 正道</p> <p>出水校区自治協議会 会長 渡辺 幸夫</p> <p>砂取校区自治協議会 会長代行 今井 英雄</p> <p>出水南校区自治協議会 会長 山口 道敏 ※欠席</p> <p>健軍校区自治協議会 会長 村上 徹郎 ※欠席</p> <p>画図校区自治協議会 会長 内藤 征夫 ※欠席</p> <p>泉ヶ丘校区自治協議会 会長 永田 俊洋</p> <p>若葉校区自治協議会 会長 古閑 勝徳</p> <p>秋津校区自治協議会 会長 藤山 英美</p> <p>水前寺活性化プロジェクトチーム 代表 永野 陽子</p> <p>熊本市子育て支援ネットワーク連絡会 副代表 西原 明優</p> |

熊本県文化協会
 副会長 岩岡 中正 ※欠席
 熊本記念植物採集会
 副会長 奥村 智治
 熊本野生生物研究会
 事務局企画担当 歌岡 宏信 ※欠席
 自然観察指導員熊本県連絡会
 事務局長 田畑 清霧
 日本野鳥の会熊本県支部
 副支部長 坂梨 仁彦
 水と緑ワーキンググループ
 代表 大住 和子

 藤岡土木部長、関係課、事務局

<議題>

- (1) 前回会議の振り返り
- (2) 地域の意見
- (3) 計画の基本理念（案）
- (4) 計画の基本方針（案）
- (5) 意見聴取手法
- (6) 今後のスケジュール

●昨年の11月に第3回の協議会を行い半年以上経過しましたが、改めて江津湖の歴史の振り返りを行い、事務局案として基本理念の見直しを行ったところでございます。今年度、すでに6月になりましたけども、今年度末にゴールを目指して、市民の皆さまに江津湖に関しての策定をしていきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。（藤岡土木部長）

●それでは次第に沿って進めてまいりたいと思っております。議題が(1)～(6)まででございます。まず、(1)～(4)までの説明を事務局から通しでお願いいたします。（市川会長）

【事務局説明】

～議題(1)～(4)までの説明～

●議題の1～4まで説明がありましたが、委員の皆さんのご意見をいただきたいと思っております。まず最初に資料1前回の振り返りと、資料2の地域の意見について何かご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいですか。それではまた後で、ご意見があればよろしく願いいたします。議題の3と4基本理念の案と、基本方針の案についてご意見ありますでしょうか。（市川会長）

●資料3の最後の頁です。たたき案となっているところの図は見やすいようになったと思うのですが、その中の生物多様性につきまして、確認というかお願いがあります。希少な外来生物、自然と人との共存共生、江津湖本来の環境保全、外来生物の繁殖があります。希少な生きものに関するところがボンと強調されている気がします。どちらかと言いますと、江津湖というのは希少な生きものももちろんいますが、身近な生き物と触れ合

う事が出来る、熊本市エリアの本来いる生き物が暮らしているゾーンとしての重要性に注目したほうがいいと思います。熊本の在来の身近な生き物、その生息場所がある。その中に暮らしている希少な生きものというところが強調されればよりよくなると思います。（田畑委員）

●ありがとうございます。希少生物だけでなく、熊本在来の身近な生き物と触れ合える場所ということがわかるよう、表現を修正したいと思います。（事務局）

●希少な在来生物だけを強調するのではなくて、もともと江津湖にいる色々な種類の生き物があります。それが子どもころからそういったものと遊びながら成長していく。そういうような感じのイメージがいいですね。その他ございますでしょうか。（市川会長）

●今と関連したところなんですけど、本来の熊本のオリジナルの在来生物が生息している場所に関わることで、例えば基本方針の資料4、基本方針②の生物多様性の保全と自然と人との共存・共生というところなんですけれども、施策の方向性というところで、江津湖の現状を把握し、時代に適応をしたという記載がありますが、今の話と何が大事かということをしっかり議論することが重要で、適応したところという議論にはまだなっていないと思うのです。なので在来の生物、本来生息すべき生物、そういったようなニュアンスの方が、生物多様性の保全の概念が適切だと思いますので、少しそのへんの言葉を修正したほうがよろしいと思いました。それと、資料3のほうの今の話に関するんですけども、5枚目です。左側の文章の歴史文化についてはかなり書いてありますけど、例えばスイゼンジノリについての記載、言葉がこの資料にはどこにも出てきていないですね。左側に記載の歴史文化はかなりボリュームがあるんですけど、やはり江津湖の魅力を考えると、もう少し湧水のことであったりというのが必要なんじゃないかなと思います。ボリューム的にちょっと歴史文化が少し大きくなっていますので。それを否定するつもりは全然ないんですけど、もう少しそちらについての記載が必要であるんじゃないかなと思います。それと最後に基本理念なんですけど、江津湖というのが主語というのはわかるんですけど、持続可能性の継承が言葉の終わりなんですけど、持続可能性の継承ってあんまり言葉として使うことは少ないのかなと思いますので、可能性の継承ってどういうことなんだろう。日本語的に受け入れイメージはわかるんですけど、よくよく見てみると可能性を継承するのか、持続可能というのを継承することはわかるんですけど、そのへん言葉を少し、修正まで必要ないかもしれませんが、ちょっと気になりましたので述べさせていただきました。以上です。（皆川委員）

●ありがとうございます。先ほどの文言につきましては、今後骨子、素案といったところで計画をつくっていきますけど、その中で表現については修正をしていきたいというふうに考えております。また、基本理念の最後のところは、こういった表現、文言がいいのか、皆さま方からご意見を伺いながら、事務局の中で勉強をさせていただきたいというふうに考えております。（事務局）

- 水前寺活性化プロジェクトチームの永野でございます。基本理念は私としては大変よいと思います。私どもは地域を歩いて、色んなそういうぜひ残したい場所調べましたところ、ぜひ後世にここは残したいといった場所が近くでございます。それをきちんとわかるように展示することが大事ではないかと思っております。今まとめて写真を撮っています。本当に近くでございますので、ぜひそれをご覧いただいたらと思っております。
(永野委員)
- ありがとうございます。(事務局)
- 資料3の2枚目の右側の真ん中ぐらいに外来生物というところがございます。書いてあることはもっともなことだと思うんですが、追加なり修正なりお願いしたいことがございます。外来生物うんぬん、生物多様性うんぬんとございますが、加えていただきたいこと。新たな外来生物を出さない。ということをしっかり取り組む、啓発していく。それで始めに対処する。と是非入れて頂ければありがたいと思います。正直、出てしまっている分については厳しい状況です。さらにということがあるとすれば、もう目も当てられないということになりますので、早期に対処するということを使って、さらに啓発を進める。新たに出さないことの取り組みを行う、そういうことをぜひ強調していただければ、ありがたいと思います。以上です。(田畑委員)
- ありがとうございます。確かに外来生物は大きな問題でもありますので、今後増やさないために、現状だけではなく、新たなものを出さないといった啓発活動だったり、万が一出たとしても早期に対処するとか、そういったところで、取り組みを進めていきたいと考えております。(事務局)
- 啓発活動よりも、実際ブラジルチドメグサが出てきたときにすぐ対応しておけばあんなふうにならなかったかもしれない。菊池川がブラジルチドメグサで覆われたという現象は既に情報としてあったわけですから、江津湖のブラジルチドメグサが入ってきた段階で対応する、そういう対応の意味だと思うんですね。ですからまだ、ナガエツルノゲイトウはそれほど多くはないです。新たな脅威です。そのへんのところの対応を早めにするということを経験しておく必要があるんじゃないかということですね。(市川会長)
- 追加でもう一言お願いします。周辺の江津湖以外のところの情報も収集しながら江津湖を見ていくことが必要だと思います。あわせて、江津湖は湧水で年中温暖な状況であると。他の場所に外来種が入っても広がるのに暇がいる場合も、江津湖はさっさと増えていくと。他のところでは一年間で一定のシーズンしか子どもを残さないんですが、江津湖は年中子どもを残しています。サイクルが非常に早い。特別な環境で入ってしまった時の被害の広がり方は、他よりも早いのではないかと思います。特殊性を十分理解した上での対策ということも、江津湖の場合には特に強調が必要かというふうに思います。以上です。(田畑委員)
- ありがとうございます。(事務局)

- 今の意見は非常に重要かと思しますので、特に外来種の対応というのは、迅速にしないとイケないと思います。（市川会長）
- 資料3の1ページ目なんですが、「くまもと水田稲作の拠点」から始まっておりまだけれども、これってあくまで人間の歴史なだけであって、江津湖はずいぶん前から存在しているわけですね。昔の影響を強く受けて存在している。その部分が抜け落ちていきますので、なぜ、貝石動物の視点もその前に一つ加えていただければ、理解しやすくなるのではないかと思います。（坂梨委員）
- ありがとうございます。江津湖は、旧石器より前から湧水があって、それによりというところもありますので、きちんと歴史を振り返りながら整理をしていきたいと考えています。（事務局）
- 何度も言ってますけれども、2ページ目のところですね、『くまもとの水の成り立ち』のところで、ずいぶん丁寧になったので嬉しいんですけども、流域のつながりがあって初めて地下水というものは湧水しているわけですから、上流域のことをちゃんとやってもらったほうがいいんじゃないかなと思います。ですから、ここでは『くまもとの水の成り立ち』で阿蘇のことが書いてありますけれども、水田の役割、水田の力というのが抜け落ちていきますから、そこを是非入れて頂きたいというところと、流域でこう守っているから地下水が出続けているというところにも触れて頂きたいと思います。で、持続可能な水については上流域の動きをどれくらい豊かなものにしていくかというのがありますので、そこのところに触れていただければなと思います。（大住委員）
- ありがとうございます。水は確かに江津湖、熊本市だけではなくて、上流域とで循環していますので、きちんと上流域も含めて考えていきたいと思っています。（事務局）
- 資料3の年表のところなんですが、細かいことですが、1969年の鳥獣保護区の指定の左側に飛来するカモの急増→周辺農作物の食害というふうにあるんですけども、この書き方が1969年以前から来ているのに右から来ている感じですね。縦矢印は1969年以降か、1969年の話でしかないんですけども、ここだけ逆になっている。もう一つその細かいことだけでも、飛来するカモの急増で周辺農作物の食害というのは1981年ですね、多分。1981年に増えて市の方で対策ということになっていると思いますので、そこの確認をお願いしたいと思います。（坂梨委員）
- 失礼しました。確認させていただきます。（事務局）
- 資料3の2枚目右側に「生物多様性とは」というので、やさしい表現で、生物多様性とは、種の多様性とはと書いてございますが、何かどこかから持って来られたのでしょうか。何か長い表現をやさしくということ短くしたのでしょうか。短くなったがゆえに、

つながりが分かりにくくなっているような。どうしたらよいのかは今はちょっと分かりませんが、読み取りにくい表現のような気がします。（田畑委員）

- 市の環境共生課の方でこういったホームページを出しております。資料の関係上、まとめため分かりにくくなっておりますけれども、きちんと今後計画等に謳っていくときには、そこ辺りの言葉も補足していきたいと思っております。（事務局）
- その他ご意見、ご質問ございますでしょうか。（市川会長）
- 歴史とかのところで、例えば資料3の「藩主の別荘地」のところで、御茶屋が、砂取のところに料亭とかがあるんですけども、社交の場であったということで、それはおそらく方針の利活用のところに、「社交」みたいなキーワードは、多分アクティビティ・マネジメントのところに効いてくるかなと思いますので、少し補足していただければと思います。（星野委員）
- はい、ご意見ありがとうございます。その辺りも補足をさせていただきます。（事務局）
- 他にご意見、ご質問ございますか。（市川会長）
- 資料を修正して頂きたいと思うんですけども、資料3の4枚目なんですけれども、抱える課題のところで「外来生物の繁殖」のところで「本来の自然環境の喪失」とあるんですけども、外来生物の繁殖という一段上に「本来の自然環境の喪失」という項目があるんだろうなというふうに思います。部会でもお話ししたんですけども、外来生物の繁殖が絶たれても、なかなかそれだけでは本来の自然環境の喪失が回復するとは思いませんので、外来種によって在来種が減ってきているというのが一つの要因であって、人為的な改変ということも大きな要因ですので、これから本来の自然環境を保全・再生というようなことを行なっていくのであれば、課題としてしっかり挙げておかないと、次につながってこないの、少しスペースを空けてこんなに見られなくなった生物が増えてきているというようなことが重要なことになると思いますので、示していただきたいというのが希望です。（皆川委員）
- はい、ありがとうございます。（事務局）
- 上の方に補足して頂きたいのですが、自然の力モがいなくなった原因として、外来生物の繁殖、外来生物が増えてきたということで、生息環境自体が破壊されてきているという、もう一つ入れて頂きたいのは、人の活動量がまんべんなくなってきていると、人の活動量の増加、利用の増加でもかまいませんが、その辺の言葉も入れていただいて、どの程度利用すればいいのかというのは後の調節になりますので、人間の活動の制限というのを考えないといけない部分があるという事を、課題の中に入れて頂ければ検討しやすいのではないかと思います。（田畑委員）

●よろしいですか。その他にご意見ありますか。私の方から一つだけ。資料3の3枚目の上の主な出来事が環境に影響したというところがない。例えば、実際私は目で見てるんですが、上江津湖の浚渫4年間で約10万 m^3 出したんですね。その後、上江津にバラタナゴがいなくなってしまったという事象が発生している。なぜならば、二枚貝やドブ貝などが浚渫でとってしまったというのがあります、そういうことの上の実証と下の環境とを関連づけて考えられないかということです。表現の仕方にそういうのも入れて頂けるといいんじゃないかと。下江津の浚渫の影響は何だったのでしょうか。下江津が池になってしまったんですね。流水性がなくなりました。上江津の浚渫を行った結果、上江津の水深を2mから3mありますが、上江津湖の一番下流側のところが流速1m近くあったのが20cm近くまで流速が落ちた。それもやはり浚渫の影響ですよ。だからそういった上の主な出来事の影響が下の環境にどう影響を与えたかという表現の仕方も、考えて書いて頂きたいと思います。ただ、こういう出来事があった、だけでなくそれがどういう事象になったのかということをやっとしっかり書いてほしいと思います。（市川会長）

●はい、ご指摘ありがとうございます。関連付けであったりとか、そこも押さえていただきたいと思います。（事務局）

●よろしくをお願いします。その他ございますでしょうか。（市川会長）

●今日の資料というところではなくて、今後の課題というかあるいは、今後の部会の中でもぜひ議論していきたいことですが、資料4の方針ですね、資料3の最後のページのぐるっとまわっているのが、おそらく方針の7つに対応していると思うんですけども、これが方針の関係というか、おそらく方針1、2、3が、水と生物、歴史。これが土台となるというか。前提となる方針、こういう利活用と保全の土台となる一番大事な方針が1、2、3。例えば、基本方針4と公園の方針2と方針3というのはマネジメントしたり発信したり、結構連携することが大きいのかなというふうに思うし、その土台があってそういうマネジメントがあって、普通に市民が楽しむ方針1みたいなものがあるという感じかなと思うんですけど、そこらへんは羅列だと相互的な連携とかが難しくなったりすると思うので、構想化するように議論して骨子という部分に載せていけたらなと思っています。今後議論していきたいなと思います。（星野副会長）

●よろしいですか、その他。（市川会長）

●資料3の2ページ目の右側の2段目の「豊かな生物多様性」というところがあるんですけど。生物多様性というのは非常に理解されにくいところがあって、熊本市の生物多様性C戦略とかは作っているんですけど、なかなか市民に浸透していないところがあると思うんです。ここの文章を見ていると、やっぱりレッドデータに記載されている希少種の話であるとかそういうことしか書いてなくて、写真もまたそういう希少種しか挙げてないんですよ。自然観察会が挙げてあるんですけど、なるべくいろんな場面で生物多様性を理解していただくためにも生態系の多様性の写真を一枚でも入れると、

少し違うのかなと思いますので、ここで、江津湖には多様な環境があるということをお願いしたいので、湧水地の写真でありますとか、そういうことも入れていただくと、またちょっといいような気がします。（坂梨委員）

●はい。希少植物のみを出すのではなく、もともとの生態系の記載もあわせて、修正いたします。（事務局）

●よろしいですか。それでは、次の議題に移ります。事務局より、議題（５）～（６）の説明をお願いします。（市川会長）

【事務局説明】

～議題（５）～（６）までの説明～

●ありがとうございました。只今の議題（５）（６）について何かご質問・ご意見ございませんでしょうか。（市川会長）

●資料５です。市民からの意見、学生、子ども、観光客、周辺の施設の利用者、地域の方というのを大きく４つに区切ったということなんですが、江津湖を利用している人たちへの意見聴取。江津湖には県内外から、鳥を見にわざわざ江津湖に来る人が毎年大勢いらっしゃいます。それ以外でも江津湖で活動している方々がいらっしゃいます。そういう意味で江津湖そのものを利用している人への意見聴取みたいなものはないのでしょうか。（田畑委員）

●はい、ありがとうございます。江津湖を一般的に利用されている方々につきましては、右下に記載しておりますオープンハウス等、対話形式で掘り下げて意見を聞いていきたいと考えています。今ご意見にあった、例えば鳥を観察されていらっしゃる方とか、野鳥の会の方に参加頂いていますが、そういった方々につきましては各段階においてヒアリングをさせて頂きたいと考えております。（事務局）

●可能であれば、江津湖を利用している人の中には、イベントの時とか人が大勢来る時に来る利用者と、人がいるときは外して、人がいないときの江津湖を利用する利用者がいますので、そういう利用者の声もどこかで引き上げるといいかと思います。（田畑委員）

●①の子ども、学生等についてなんですけれども、ちょっとキタミソウで調べてみたら県内の付近の高校の生物部だとか研究されていて、なんとか賞とか国か県かはわかりませんが、数年前受賞したというようなことをちょっと見ていまして、それでそういうあそこを活動拠点として研究しているような、高校の生物部等についても少し話を聞く機会があったら、聞いていただくと、そのキタミソウを知っているのは生徒さんだったり教諭の方だったりするのかもしれないので、少しそういう情報収集の仕方もこれからしていく必要があると思ったので、ご意見させていただきました。（皆川委員）

- 地震の前は第二高校なんかでもやっていて、いくつか他の高校もやっているので、拾ってやって頂ければと思います。子ども・学生とあるが、いきなり子どもというのは小学生だと思うんですけども、中高生いないですよ。何で大学生なんですか。（市川会長）
- 小学校の校区が8校区にまたがりますので、その小学生にご参加を頂きたいなと思っています。先生のご指摘の通り、今ご意見頂いている高校であったり、いろんな研究等されていらっしゃると思いますのでヒアリング等やらせて頂きたいと思っています。学生を入れましたのは星野先生、皆川先生にやっていただけないかなとお願いも含めて。（事務局）
- 中学校も対象に入れてほしいんですけどね。なぜかというと、理科を嫌いになっちゃうんですね、中学生になると。いろいろな活動をしていてやっているところを見て頂くといいと思うんですけども、小学生は大好き、中学生、高校生になると、一部の人以上はもうダメっていうのが、大人になっていきます。そういうところをしっかり把握できるようになるといいのではと思います。よろしくお願ひします。その他、ご意見ございますか。（市川会長）
- 出水中が稚魚を放流したり清掃活動とかやっていると思いますので、そういったものも参考にされたいのではと思います。（永野委員）
- ありがとうございます。（事務局）
- この会議は水前寺江津湖公園に限ることだけかもしれないんですけど、実は水前寺江津湖公園の近辺には、豊富な湧水が流れているところがあって、例えば希少な植物があちこちで出ているんですね。他では見られないようなものもたくさんございます。そういったところも含めて、啓発活動だとか気を付けて頂くためには、子どもたちにも合わせて知らせるともに大事なんだよと、伝えて頂けるといいんじゃないかなと思いますので。よろしくお願ひします。（坂梨委員）
- ありがとうございます。部会の際にも頂いたんですが、会議室に子どもたちを集めて会議をやるのではなく、自然観察会、現場での見学を含めてやった方がいいのではというご意見も頂いておりますので、その辺等を回ったりしてなど、工夫してを考えたいと思います。（事務局）
- よろしいですか。何か他にございませんか。（市川会長）
- 資料5の活動はとても大事なのでしっかりやって頂きたいんですけども。これは当然認識されているとは思いますが、やはり関係部署とかですね。例えば区役所ですか、中高生とのつきあいとか、すでにあつたりすると思いますが、当然観光とかですね、頭にあると思いますが、部署を越えた総合的な取り組みをしないとこの調査は大変

すぎてうまくいかないのではないかなと思いますので、ぜひ熊本市全部で取り組んでいただけたらと思います。（星野委員）

●よろしいですか。その他ご意見ございませんか。5と6に関してはよろしゅうございますか。それではないようですので、全体を通じて1から4までを含めてございませんか。（市川会長）

●資料3の3枚目の下江津湖、上江津湖の浚渫なんですが、具体的な効果や影響とか、そういうものが下の環境の欄に少しでも出していただければ、非常に勉強になると思います。私も以前、田んぼで作業していた際、大きな貝もあつたりと、僕はほとんど見たことがないんですけども、そういう希少な生物等を書いていただければ非常に勉強になると思います。（藤山委員）

●はい、ありがとうございます。浚渫をしたことよっての良いいこともあつたともいいますけどメリットもあつたと思いますので、その辺等分かるような形で皆さんが共有できるような形で記載させて頂きたいと思います。（事務局）

●解説をお願いします。その他、何かございませんでしょうか。（市川会長）

●浚渫に関しまして、この記載だけではないことをお願いなんですけれども、浚渫がありますとか、どこかの大きな改変の工事があつますとか、そういったことをした後によつてどう変わったのかというデータの積み重ね、これがこれから江津湖をどうしていこうという大変参考になると思います。浚渫自体は今後もし続けなければ埋まってしまうという部分もございしますので、ただどの規模でどのくらいやつたら、どんないい効果があつてどんなマイナス面があるか、どのやり方だつたらあつた、どのやり方だつたらうまくいつたとか、あるいは利用の仕方をどんと変える何かために行つたことで前と後でどう変わったとか、データが残っていないのもあるかと思いますが、分かることに関しましては整理しただけなら今後の参考になると思いますので、お願いしたいと思つます。（田畑委員）

●ありがとうございます。浚渫のデータを私どもで読み解く限り、下江津とか上江津とか浚渫をした場合の、当時は新聞等でかなり評価されているところもありましたので、その辺等きちつとまとめて皆さんと共有させてください。（事務局）

●確か、上江津の浚渫につきましては、浚渫当初から年に1回測量をやつていしますので、私どもで、それを参考にして頂けたら。ただ生物調査はしてないです。生物調査をしているのはつい数年前に調査したもので、その他団体がやつているか別ですけれども、そういう資料については遡つて探していただくような形でお願いします。その他に何かございませつか。全体を通じて。（市川会長）

- 資料3の2ページ目に、魚等についてはありますが、水が湧く地域もございますので、自然にホタルが見られる場所もございます。その辺も記載いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。（永野委員）
- ありがとうございます。確かにホタルについての記述がないので記載させていただきます。（事務局）
- その他ございますか。はい、どうぞ。（市川会長）
- 資料3の2枚目についてお尋ねしたいと思います。私たちは屋形船で船を出してもらって、上江津湖から下江津湖まで行ったり来たりしていたんですけど、そういうことも今全然できていないですね。水深がちょっと浅くなって、だから、そういう風なところも利用する人たちにもあるのではなかろうかと思っておりますので、もしよかったですら地下水に対しての取組みということで、記載していただきたいと思っております。（古閑委員）
- はい、ご意見ありがとうございます。地下水量の保全に関しましては、先ほど大住委員からもありましたが、流域での取組みというのが非常に重要となってきますので、水田に水をはるような取組みを他の市町村と連携して取り組んでいたり、かん養林を植えていたりだとか、そういった取組みが功を奏して、湧水の減った部分が下げ止まりになっているというような認識をしています。継続した取組み、流域と一体となった取組みが必要なんだと思っております。屋形船の中で部会を開催させて頂いたことがありますが、その際私たちも感じたのが底が浅いということですね。浚渫の必要性という部分が改めて感じたということでもあります。浚渫につきましては、かなり費用がかかることが正直ございますが、利用面であったり環境面、その両面から必要であるとは認識してございますので、そこが今後の検討課題であるかと認識しております。（事務局）
- ヘドロが生産されたんですね。ですから上江津湖の方は下から湧き上がっている範囲はごくわずかですけれども、だいたいヘドロが蓋をしている状態です。ですから、浅いところから湧き上がっているというのが現状です。ですから、水が湧きだしにくい状態であると。ただ上江津は礫地帯がかなり流水がありますので、かなり湧水があります。上江津湖の周辺で約一日 20 万トンくらいの湧水があるというふうに推定しております。その辺の情報は得られることができると思います。よろしいですか。その他ございますか。それでは、本日の議事はすべて終了したということで、事務局にお返し致します。（市川会長）